

2006年度帰国子女入学試験「実技試験」「小論文」等の採点基準

学科・専攻	実技試験(芸術学科は小論文)	面接		
	狙い・意図、採点のポイント	狙い・意図、採点のポイント	小論文 利用	実技試験 作品利用
日本画	実技試験(鉛筆写生) 3時間で素描力を中心に思考力・造型表現力・感性・適正等その力量を見て決定する。 指導教員全員評価で可否の決定をする。	人物の総合評価 強い意志 覇気 忍耐を基に総合的に評価する。 教員全員の総合評価で決める。		
油 画	モチーフは女性モデルを使用した。服装は夏のイメージで、グレーの半袖Tシャツにサンダル、ジーンズのミニスカートを着用し、手にはトウモロコシのドライフラワーを持ってもらった。白い壁を背景にして、ニュートラルな色彩の衣装を着たモデルを、各自どのように解釈し、イメージを広げて表現できたか。また形態や空間は正確か、色彩の感性はあるかなど、造型表現の基礎を総合的に試問した。	面接試験のねらいは、学生が自分なりの制作を模索しており、その方向が我々教員の理想とする教育と一致しているかという点にある。また各自の大学入学後のビジョンはあるか。どのような意図を持って政策しているか。多摩美を選んだ理由が明確かどうかなどを問い、採点の基準とした。		
グラフィック デザイン	出題のねらいは、デザイナーとしてビジュアルコミュニケーションの効果を造り出すのに必要なデッサン力を求めています。 それには、創作の原点ともなる観察力、そこから生まれる発見やひらめきなどを描けるのかを問います。	面接試験のねらいは、当学科への授業への取り組みの意欲を把握し、作品・ポートフォリオによって基礎的な造形力の評価を行います。		
プロダクト デザイン	モチーフ(コーヒーマシン)の一部(ハンドル)を自由にデザインした鉛筆デッサンを行いました。出題のねらいは、モチーフの形や構造を正確に描けるか、色や質感が表現できるか、独創的で理にかなったデザインができるか、その表現力があるかを見ることです。それらの完成度が採点のポイントになっています。	面接では、しっかりと自分の考えを伝えられるか、学習目標は明確かが採点のポイントになっています。		
環境デザイン	本学一般入試と同レベルのデッサン力があるか。形、空間を把握し、平面上に表現する能力があるか。	一般入試では著しく不利になるような日本語能力のハンディキャップ、または日本の入試制度から離れていたことによるハンディキャップがあるか。あるいは海外で教育を受けていたことのメリットが能力に大きく影響し、それが本学科で学ぶことによってさらに成長する可能性があるか。デッサン以外のデザイン力をポートフォリオによって評価。		

全学科共通小論文

「二十一世紀の美術」について、あなたの理想像を800字程度で記述しなさい。

これからの美術としてはっきり提示できるか・・・30%
理想像をはっきり提示できるか・・・30%
分量は適切か・・・40%(ただし量による)